

# N-5: 参加者ネットワーキングセッション

開催日時 9月20日(木曜日) 13:50-15:20 406(4階)

## プログラミングによるデータ分析の生産性向上 — Code for Research Administration

研究力強化のため、研究力分析(研究IR)の実務担当者は、高い分析のパフォーマンスを発揮することが求められています。多くのURAが同じ情報(書誌DBや科研費DBなど)を使っていることから、データ分析に関するノウハウの共有やツール開発など協力できることがあると思っています。Pythonなどのプログラミング言語やTableauなどのBIツールは、分析の再現性や結果の可視化など、多くの点で優れています。URAの中には、プログラミングやBIツールの経験はないが、興味はあるという声を聞きます。

そこで、本ネットワーキングセッションでは、データ分析の生産性向上に関心のある実務担当者が集まり、ノウハウの共有等の可能性について議論します。興味のある方はぜひご参加ください。

## オーガナイザー



平井克之: 新潟大学 研究企画室 URA

日本郵便にてコンプライアンス、人事、業務企画部門等を経て、平成27年10月から現職。プレアワードと研究IRを担当。データ分析の生産性向上のため、Jupyter notebookを使ったPythonとSQLの読み書きと、matplotlibによる可視化に関心があります。BIツールも便利そうだと思うものの、まだ手が回っていません。プログラミングは初心者で、経験は2年程度です。



奥津佐恵子: 名古屋市立大学 URAオフィス URA(特任助教)

Wetな基礎医学系のポスドクをしていましたが、2015年11月から現職につき、プレアワード、産学連携、企画立案の補助等をメインに、研究IR(エフォート5%くらい)もほんの少しやり始めました。プログラミング素人です。



渡邊 優香: 九州大学 学術研究・産学官連携本部 研究推進専門員

研究戦略推進グループに所属し、JupyterNotebookを用いた研究力分析、プロセスの見える化、システム化等に取り組んでいます。博士(理学)。